

七夕の夜

青木陽菜

星の数だけ願いがあるなら
願いの数だけ星がある

この世界はいつも誰かの思い通り
雨が降らなきや緑は枯れる

笑う子どもの叫び声

輝くあいつらの汚い汗

緑に謝れ奪うしか脳のない人工物め
ああ、

何がいけないんだとがなる声が聞こえた

拍手もブーイングも遠くから見れば同じだと知った
スピードを上げるあの列車にブレーキはない
止めようとして殴ってとつぐに折れた後

そうか、

こんなにたくさんメニュー

神様は頼み過ぎたな

味が喧嘩してものはやおいしくない

なんで同じタイミングで口に運びましたか？
フォークもナイフもスプーンも箸も手に負えない
なるほど。

今夜は星が多すぎるようです

こんなに眩しくちゃ

カササギも目がくらんで飛べやしないよ